

埼玉の 暮らしと 社会保障

2023年11月1日発行 第331号
 (毎月1回発行)
 発行 埼玉県社会保障推進協議会
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階
 TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483
 ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

県民の怒りの抗議で「虐待禁止条例改正案」撤回 県社保協として撤回要請の申し入れ

9月28日に県議会の議事運営委員会に自民党埼玉県議団から「県虐待禁止条例」の改正案が提出されました。この改正案は、「9歳



以下の子どもを自宅などに放置することを禁止」、また「9歳以下の小学生だけで公園で遊ばせる」、「9歳以下の小学校の集団登下校」なども禁止行為にあつたと明らかになる中で、10月6日の福祉保健医療委員会で提案され、自民、公明の賛成多数で可決、13日の本会議での可決・成立予定でした。しかし、さいたま市PTA協会をはじめ県民の反対の声が急速に広がり、オンライン署名は最終的に10万人以上が集まりました。また、10月10日に新日本婦人の会埼玉県本部、埼玉労連が声明を出し、同日の11時に県社保協として、自民党県議団に撤回の申し入れ文章を渡しました。同日、12時から、撤回を求める県庁前集会には230人が集まり、個人、団体でリレートークが行われました、子どもが4人いるシングルマザーの方からは、子どもたちだけで留守番ができなくなると働きに行かなくなり、生計が立てられない。また、子どもがホームスクーラーのお父さんからは、放課後に友だちが遊びに来てくれるのに、それもできなくなり、友達との関係が断たれるなど、多数の方々から抗議の声をあげました。

この県民の声が、多数議席を持っている自民党県議団に届き撤回させました。しかし、その後、田村琢美自民党団長は、記者会見で「私の言葉足らずにより、県民・国民の皆さまに不安を与えてしまった。」なぜ県民が撤回をもとめたかの本質は認めていません。また、大野県知事は、「撤回を歓迎したい」と表明し、条例制定までのプロセスの見直しも提言しました。

新婦人会県本部の高田会長は「この事態をしっかりと覚えておきましょう。次の県議選で民主的な県議会になるような議員を選びましょう。」と呼びかけました。

県社保協に朝日新聞から、自民党への撤回申し入れについて、電話取材がありました。「県民の声が県議会に届いたことが大きな成果」と答えておきました。

県議会では、13日の本会議において、正式に取り下げの手続きをおこないました。

(埼玉県社保協 段 和志)

「無保険者大量発生危険指摘 マイナ保険証問題」

市民学習会に420人が参加



埼玉弁護士会と埼玉県保険医協会が10月7日に開催した市民学習会「健康保険証が廃止されたら、医療機関も患者も困ります」。会場の埼玉会館とオンライン合わせ420人が参加しました。

第1部では医師など3氏が現状と問題点を報告した後、経済ジャーナリストの荻原博子氏が講演。第2部で荻原氏を交えたパネルディスカッションを司会の保険医協会の山崎理事長を加え5人で行い問題点について深めました。

荻原氏の講演について紹介します。荻原氏はマイナ保険証の問題点として、他人でも顔認証が容易にできてしまうこと、暗証番号を3回間違えるとカードが使えなくなり再発行まで診療を受けられなくなることを上げました。

さらに6月にマイナンバーカードの法律が変わったことに関わって、誰にも関係することが3点あるとして、①マイナ保険証が義務化され健康保険証が2024年秋に廃止されること、②マイナンバーカードの利用範囲が広がったが整備ができておらず犯罪にかかわるケースが多発する危険があること、③拒否せずに何もしないで黙っていると公金受取口座に勝手にひも付けされることを紹介。カードでつながるマイナポータルという情報の倉庫に不正なアクセスがあってもデジタル庁は責任を取らないなどの問題も指摘しつつ、マイナ保険証の更新問題にも言及。これまでの保険証は保険者から自動的に届いたが、マイナ保険証は5年ごとに自分で更新手続きする必要があります。その際に、手続きをしなかったり、寝たきりなどで手続き難な高齢者など無保険者が大量に発生する事態が考えられるとして「そうなった時にじゃあ、もう保険はやめようって方も出てくるんじゃないか」と語り、「世界に冠たる国民皆保険制度が崩壊の危機を迎えないかと危惧している」と表明。先人が60年かけて作ってきた健康保険制度を守り抜こうと呼びかけました。

(埼玉県商工団体連合会 前田 功)

いのちまもる10.19総行動



10月19日(木)午後1時から、日比谷野外大音楽堂で、「医療・介護・福祉に国の予算を増やせ!いのちまもる10.19総行動」が行われました。全体の集会参加者は2,749人でした。

開会あいさつでは、日本医労連の佐々木悦子委員長が行ない「来年は診療報酬、介護報酬、障害者福祉サービス等報酬の改定が行なわれるが、規制改革推進会議で人員不足対策の議論される中で、医師のいないオンライン診療所の拡充などが上げられたが、人員不足で医療・介護現場での働き方がますます厳しくなり、十分な医療・介護が提供できなくなっている。規制緩和はありえない。マイナ保険証の不安は、国民皆保険制度で守られている国民のいのちが脅かされる事態になっていると指摘。いのちと人権を守る政治への転換のため、声を大きく上げていく」ことを呼びかけました。

オープニングでトークショー「ザ・ニューズペーパー番外編」のコントが行なわれました。

国会議員では、立憲民主党3人、日本共産党3人が連帯の挨拶をしました。日本共産党の田村智子参議院議員は、「保険証なくすなを政治を動かす力に」「保険証を廃止しなければならぬ必然性は何もないことは明らか、道理が通らない政治は民主主義とは言えないと指摘し、今の保険証を守ることを超党派でやっていきたい」と呼びかけました。

次に、各分野からの訴えが行なわれました。福祉保育労群馬支部の方は、31年間保育所で勤務し、4月からはパートになったと述べました。群馬県では自治体独自の保育士補助がなく、最低賃金は935円で、関東で最も低い、保育士の初任給は19万円で、12年目でも手取りは20万円。全産業平均より7万円も賃金が低い。保育士が不足しているのではなく、103万人の保育士は、資格があっても働いていない、賃金が改善されれば働いてくれる人はいるはずだと指摘しました。みんなの力で山を動かしたい。軍事費を2倍にする政府に財源がないとは言われたくないと述べ、平和こそ福祉であり、軍事費増を止め、福祉へお金を回すべきだと訴えました。

介護現場からは、千葉民医連から、病気になっても認知症になっても笑顔で生きられる介護の仕事が大好き。しかし、頑張りも限界にきており、崩壊が始まっている。

岸田首相は6,000円の賃上げをしようとしているが、介護の賃金は全産業平均よりも月額で7万円低く、ゼロを一つ付け足してほしいと訴え、介護報酬が上がらなければ賃上げはできず、介護事業所の倒産も過去最多になっている。国民の命と生活を守るのは政治の仕事、早急に国の責任で介護職員の賃金を全産業平均へ引き上げるべきだと訴えました。

看護現場については、京都民医労から、訪問診療の看護師として、コロナが5類になっても救急搬送がなかなか見つからず、受け入れを断られることが増えてきていると感じている。肺がんで酸素濃度が70%台になっている人も、1時間30分後にやっと受け入れ先が見つかった。どこも医師、看護師不足で、受け入れたくても受け入れられない。今の政治が高齢者の救急医療を切り捨てているからだと指摘。命に格差を持ち込もうとする政治が私たちを苦しめており、この状況の中でどう闘うか考え、できなかったことを書き留める活動をしている。その中で、忙しそうにトイレに行きたいと言えずに患者さんが失禁してしまったことがあったとことを知り、患者さんの尊厳まで傷つけてしまっている。このような現場を可視化することで世論を動かし、政治を変えていきたいと訴え、ともに闘いましょうと呼びかけました。

医師、歯科医師の現場については、埼玉保険医協会の山崎理事長からは、約一割の開業医が診療所を閉めようとしている、マイナンバーカードを無理に押し付けられているからであり、コロナに耐えた人がマイナカードで



殺されようとしていると指摘。国がやっていることはあべこべで、全てが嘘八百だ。マイナ保険証では、資格確認ができないと10割の金額を納めなければならなくなる。国民皆保険が壊されようとしている。明日からも保険証を持って来てください。そして、身近な人に伝えてほしいと呼びかけました。政府は来年度から訪問看護までマイナ保険証を義務化するとしていますが、どのようにするかは「考え中」だ。皆さんの声を上げて保険証の存続をさせていきたいと思いますと呼びかけました。

パレードは日比谷野外音楽堂から東京駅まででした。「医師・看護師を増やせ」、「保険証をなくすな」、「いのちを守れ」などのコールをしながら歩きました。

(医療生協さいたま 小野民外里さんのブログから提供いただきました)

※すべての記事を載せることはできませんでした。

第44回埼玉障害者まつり

「日本国憲法は日本の誇り、世界の宝」を力説

10月8日、埼玉県障害者交流センターで、「埼玉の地域から平和・共生社会めざす」をテーマに第44回埼玉障害者まつりが開催され、2,200人の参加者（主催者発表）がありました。

今年のテーマの中心企画である、国際ジャーナリストの伊藤千尋氏による講演会『憲法9条は未来を照らす』は、埼玉での障害者九条の会のパンフレットに書かれている「障害者は平和でなければいられないのです」に触れな



がら、とりわけ障害者は、戦争になってしまったら、戦争のために役に立つ人が重視される。そういう世の中に変わっていきます。と伊藤さんは話し始め、「日本国憲法は日本の誇り、世界の宝」を力説し、社会を変えるには、「9条を体現した中村哲医師のように、私たち一人ひとりの行動だ」として講演を終えました。

午後のホールでは、ドラムサークルがリズム遊び。飛び入り参加も、リズムに合わせて輪がどんどん広がって行きます。二階では、点描画の石井さん、細かい点で描かれた作品を実演しながら、販売もしています。最近漫画にも挑戦しているとのこと。子ども広場では、「射的」「輪投げ」をやっていました。子どもたちの列が出来ました。その傍では、かわせみの「体験コーナー」。ポーチに絵をつける体験です。絵をつけていた女の子。「かわいい!」と大満足。

20ほどの模擬店の出店があり、室内では工芸品、リサイクル品など、外では、焼きそば、から揚げ、チジミ、お団子など。食べ物の模擬店では、人が並び、早々に売り切れたところもありました。

プロレスを観ていた女性、昨年お気に入りの女性レスラーと会いたくて今年も参加、一緒に写真を大切にしていたのに、残念ながら今年は写真を撮れなかったとのこと。

音楽、スポーツ、マッサージ、大道芸、障害者年金の相談コーナーと楽しい一日となりました。

「コロナを越える」を、準備の心構えにしてきましたが、模擬店の申し込み、チラシのはけ具合、協賛金の集まりもコロナ前にはいかず、準備をする側の高齢化もありました。フィナーレで、「もうソロソロ」という言葉を準備していましたが、「初めて参加した」「楽しかった」「また来たい」の声に押され、「来年も会いましょう」と言っていました。

(障埼連 若山 孝之)

はたらく女性の中央集会 in 長野

あかいにとはあかいと言える社会は健全化していく



第68回はたらく女性の中央集会 in 長野が、10月7、8日に長野市内で行われました。1日目はホテル犀北館で全体会、2日目はJA長野県ビルで分科会が開催されました。

国民の声に耳を貸さず ALPS 処理

水の放出や原発再稼働、保険証廃止、インボイスなどを強行し、物価高にも有効な手を打たずに社会保障を切り捨て、敵基地攻撃能力や、武器輸出、改憲に躍起になっている政府のもとで、労働組合や女性団体、商業や農業で働く女性が集い、はたらく女性の暮らしと権利を守る運動を交流し、手をつなぎ、たたかう決意を固めました。2日間延べでオンライン 333人以上、リアル 624人の計 960人以上が参加しました。

全労連寺園通江事務局長が基調報告を行い、その後次々と発言がありました。メインはジャーナリストの青木理さんと全労連小畑議長との対談「私たちにできること～平和憲法と民主主義、ジェンダー平等～」で、日本の民主主義やメディア状況、ジェンダー平等について、現在のメディアの問題点を深く知ることができました。対談の中で青木さんから「自分たちの既得権益だけを守ろうとする“労働組合運動”が広がっているのは明らかに市民の支持を失わせる。4割の非正規労働者、外国人労働者など、本当の意味での働く人たちの権利や人権を守る運動を頑張って作ってほしい。」また、「政権の左右を問わず、時の政治権力者や政治的、経済的、社会的強者に対して、『それはおかしい』といえる人や機能、メディア集団があればあるほど、その社会・国家は健全で、暮らしやすい。それを言える人が少なくなればなるほど、国家や社会はおかしくなっていく。」と長くひとつの政権が長く続くと、政権が代わるごとに働くはずのチェック機能が失われる危険性を学びました。

「労働組合や地域で活動する人たちが地域で集まって声を上げる、メディアがおかしいと思うことにはおかしいという、そうした記者やジャーナリストや番組が、増えれば増えるほど社会は健全化していく。僕と皆さんは同じような立場、同じ時代、同じ社会で隣の人として暮らしている。僕は原稿を書いたり、たまにテレビやラジオで声を上げるので、皆さんは地域や職場などであきらめずに声を上げ続けて下さい。一緒に声を上げ続けましょう」と結びの発言がありました。健全な社会にしていけるために、権力に対して声を上げるメディアを支え広げていこうと思います。

(障埼連 渋谷 ひろみ)

「保険証なくすな」

10.13 鶴瀬駅頭宣伝に5団体9名が参加

私たち富士見市社会保障をよくする会は、10月13日午後3時半から、「マイナンバーカードとの一体化はただちにやめて、現行の健康保険証を残す」よう、鶴瀬駅西口で署名とポケットティッシュ配布、ハンドマイク宣伝に取り組みました。参加団体は、医療生協、新婦人、年金者組合、生健会など。他に個人の参加があり9名の参加で1時間余りの行動でしたが、署名24筆、ポケットティッシュを約50個配布しました。



署名にご協力いただいた市民のみなさんからは、「国民健康保険証はもう、市から送られて来なくなるの」、「保険証がなくすなんてとんでもない」、「マイナカードは失くしたときが心配」、「マイナカードはトラブルが多くて信用できない」、「保険証はいままでどおり使えるのが一番」など声が寄せられました。

署名にご協力いただいた市民のみなさんからは、「国民健康保険証はもう、市から送られて来なくなるの」、「保険証がなくすなんてとんでもない」、「マイナカードは失くしたときが心配」、「マイナカードはトラブルが多くて信用できない」、「保険証はいままでどおり使えるのが一番」など声が寄せられました。

■資格確認証の発行には多大な労力と経費

政府はマイナンバーカードを持たない人には、資格確認証を発行すると言っています。しかし、それをするには、多大な労力と経費が必要です。それらは税金でまかなわれ、最終的にわたしたち国民にツケが回ることになります。現行の健康保険証を活用していけば、そんな無駄は省けます。これまでどおり、だれもが、医療機関にかかれる国民皆保険制度を守ることに繋がります。マイナンバーカードを持つことが困難な方や、申請をしづらい介護施設などに入所している方々も助かります。

■マイナンバーカードのリスクとねらい

マイナンバーカードには、たくさんの個人情報が入っています。情報が漏れる危険はもちろんのこと、医療機関等でシステム障害が起きた場合、受診できなくなる心配もあります。今、政府は、強引に来年の秋に健康保険証を廃止しようとしています。政府の目的は、私達国民の個人情報を集めて、企業に提供し、企業はその情報を使って、私たち国民を利潤拡大の対象とします。その見返りとして、政治家への献金を繰り返す、政界と財界の癒着構造が見え隠れします。

■宣伝行動の定例化を

宣伝に参加したみなさんからは、参加団体を広げ、署名を増やして「現行の健康保険証をなくすな」の声を大きくしよう。マイナンバーカードと健康保険証の一体化を、強引に推進する国会議員に届けるために、頑張ろうという意見も出されました。そのためには、宣伝行動を粘り強く続けていこうと意思統一がされました。次回の宣伝行動は、11月9日午後3時からです。ふるってご参加ください。

(富士見市社会保障をよくする会ニュースNO,211号より)

第32回埼玉社保協総会&レセプション

日時 12月16日(土) 10時~17時

会場 さいたま共済会館602

10:00~記念講演 本田由紀さん

(東京大学大学院教育学研究科教授)

テーマ「世界から取り残されていく日本の状況」
~社会保障を拡充し、未来ある日本に~

12:45~14:50

第32回総会

◆30周年記念レセプション

会場 さいたま共済会館601

(15:00受付開始/15:30~17:00を予定)

テーマ「埼玉から全国へ~

社会保障の拡充をめざして~」(仮称)

♡会費 お一人2,000円

♡オープニング埼玉合唱団です。

11月11日は、「いい介護の日」

介護・認知症 なんでも 無料 電話相談

ひとりで抱えこまないで

相談することで心がふっと軽くなりますよ

11月11日(土)10時~18時

☎0120-110-458

介護・認知症なんでも無料電話相談には、介護の専門家が対応します。プライバシーは厳守します。

主催 中央社保協・認知症の人と家族の会

『武器としての国際人権』著者に聞こう



すべてのくらしは憲法25条から
第5回25条埼玉集会

世界から見た
日本のヒューマンライツ



2024年 2/24(土)

(12時開場) 13:00~16:30

さいたま共済会館6階

記念講演 藤田早苗さん

■主催：第5回25条埼玉集会実行委員会